

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290901204		
法人名	ヒューマンライフケア株式会社		
事業所名	ヒューマンライフケア船橋グループホーム		
所在地	千葉県船橋市夏見台5-12-15		
自己評価作成日	令和5年2月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [//kaigo.human-lifecare.jp/facilities/gh034_FunabashiGH/summary](http://kaigo.human-lifecare.jp/facilities/gh034_FunabashiGH/summary)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県 市川市 富浜 3-8-8		
訪問調査日	令5年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活を送るうえで、毎日散歩に出かけることでADLの低下を防ぎ、気分転換を図り季節を感じていただいている。食事の準備もスタッフだけで行うのではなく、ご入居者と盛り付けや調理等共同で行っている。他に洗濯物置みや食器洗いや掃除等ご入居者が出来ることはないかを日々スタッフ間で話し合い、ご入居者が出来ることを最大限行っている。管理者とスタッフの距離はなく、何かしたいことがあれば積極的に行える環境であり、利用者だけでなくスタッフ間のコミュニケーションも大切にしている。法人全体でのケアテクニカルマイスター制度(社内資格)があり、マイスターを取得しスキルアップに繋げている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「笑顔とこころ、いつでも人が真ん中」という法人理念を原点に置いておくと共に、「入居者様とご家族様の思いに寄り添い、思いやりをもって地域と共に歩み続けます。」という施設理念を掲げており、入居者一人ひとりに寄り添った施設運営が行われている。日頃から、入居者と職員が共同で調理や洗濯物置等の家事を行っていると共に、体操や塗り絵・脳トレ等のレクリエーション活動や運動会やクリスマス等の月毎の行事にも力を入れており、心身機能の活性化や楽しみある生活に繋げている。医療面については、医師による内科・皮膚科・精神科・耳鼻科・眼科の往診が可能であると共に、訪問看護も含め24時間体制で連携しながら、入居者の健康管理が行われている。現在コロナ禍の為、地域交流は見合わせているが、散歩やドライブ、敷地内駐車場を活用した活動により、戸外での楽しみを支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は入職時に説明を行っている。日々の業務の中で職員間で話し合いを行いながら、理念を共有している。	「入居者様とご家族様の思いに寄り添い、思いやりをもって地域と共に歩み続けます。」という施設理念を掲げている。また、「笑顔とこころいつでも人が真ん中」という法人理念を掲げている。入職研修で理念を伝えていくと共に、会議で理念の確認を行っており、職員全員で理念に基づいた支援の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の時に地域の方と挨拶や会話ができる時は行っている。	自治会に加入していると共に、散歩時の挨拶を通じて、地域との繋がりを大切にしている。現在、コロナ禍の為、地域行事の参加や施設行事等の招致は見合わせている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流の際にグループホームの役割や認知症の方への関わり方等をお伝えさせていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍ということもあり、1度しか事業所で開催できていない。書類提出。	2か月に1回運営推進会議を開催しており、施設の活動報告や意見・情報交換を行い、事業所運営やサービスの質の向上に繋げている。今年度は会議を1回開催しているが、それ以外は、コロナ禍の為、構成員と書面での情報交換を通して連携を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困りごと等があった際にはご相談をさせて頂く。	市の担当者とは、業務上の相談や報告を通して、日頃から協力体制を構築している。現在、コロナ禍の為、市とは文書・メール・電話で連絡を取り合う形で連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回廃止委員会を実施している。ご入居者様が外に出たいと要望があった際には外に出られるようにスタッフ間の連携を図っている。	身体拘束排除における指針及びマニュアルを整備すると共に、内部研修を実施する等、全職員が身体拘束排除における意義を理解している。また、3か月に1回身体拘束廃止委員会を開催しており、支援方法を検討する等、身体拘束の無いケアの実践に取り組んでいる。その他、年2回職員全員で自己点検シートによるチェックを実施しており、人権意識の向上を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を3か月に1度実施し、虐待が無いように研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在も出来ていない。4月からの新年度の研修(月に1度)で実施予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は入居の説明の際に管理者からご家族に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様は日々の業務の際に意見などを聞き、ご家族様の意見などは面会時や電話連絡を行った際に意見を伺い業務に反映させている。	面会や電話連絡の際に、家族から意見・要望等を確認しており、挙げた意見や要望等については、会議などで検討し、速やかな対応を心掛けている。また、必要に応じて、手紙で入居者の生活や健康状態状況を伝えており、信頼関係構築に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や1階2階の合同会議、個人面談などで意見を聞いて行う。	定期的な合同会議やユニット会議を開催しており、職員の意見や提案等を確認している。また、管理者や法人職員が個別に意見や思いを確認する機会を設ける等、働きやすい職場環境の整備に努めている。その他、今年度から個人面談による個人査定を導入している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上半期と下半期で年に2回個別面談を行い意見を聞き取り現場の状態に意見等を反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度テーマを決めて研修を行っている。自社のケアテクニカルマイスター（社内研修）を取得を促しスタッフ全体のスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で外部との接触ができていない。リモートで参加可能な交流は参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず訪問し、ご本人・ご家族からの聞き取りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ず訪問し、ご本人・ご家族からの聞き取りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居するタイミングなども含めて、ご本人やご家族と話し合いを十分にしてから入居していただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が自身で行えることは最大限に行っている。出来ない場合や困難な時は職員が声掛けや一部介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に積極的にコミュニケーションを取るようにしており、施設入居以前の過ごし方などを聞き、参考にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会をご家族限定にせず、学生時代や仕事をされていた時の友人等にも声を掛けていただいている。	家族等との交流継続や散歩等の外出により、馴染みの人や場所等の関係を支援している。現在コロナ禍の為、家族等とは窓越し面会により、相互の関係を大切にしている。また、訪問パン屋や訪問美容を活用する等、地域との継続的な交流を働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様同士がコミュニケーションが取れるよう席の配置や、仲の良い方の席の隣への案内を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去されてもご家族へ様子の確認等を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の趣味や生き立ちなどから取り組める活動の声掛け、また日常の生活の中で何を望んでいるか観察、コミュニケーションに努めている。	入所前に本人及び家族から意向・生活歴・身体状況等を確認している。また、必要に応じて、医師や他のサービス事業所から情報を収集し、入居者一人ひとりに合わせた支援に取り組んでいる。入所後も情報把握に努めており、会議等で検討や確認を行う等、現状に即した支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居者様の過去の経歴などはフェイスシートを確認しは把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	時間がかかってもご本人が出来ること、出来るようなことは声掛けや側で見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご入居者様の状態を観察しながら定期的にケアカンファレンスを行い介護計画を作成している。	本人や家族の意向を配慮した上で検討会議を行い、介護計画を作成している。また、医師や看護師からも意見の確認を行っており、現状に即した支援内容になっている。定期的に目標の達成状況の確認や評価を実施しており、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は2時間おきの間隔でご入居者様の様子を記録している。昨春秋より手書きでの記録を廃止しLipadでの記録を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1日の流れのタイムテーブルにて業務に取り組んでいる。状況に応じて変化することもあるため、その都度職員間で声掛けを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本来であれば施設周辺の店などに買い物に行ければ良いが、預かり金で必要な物は職員が購入している。月に1度訪問パン屋と訪問理美容で外部との交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設は基本的に往診医が定期的に往診に来られる。外部受診があった場合はご家族に同伴を依頼している。	定期的に医師の往診や訪問看護が実施されており、24時間体制で医療連携を図っている。診療については、内科・皮膚科・精神科・耳鼻科・眼科の対応が可能になっている。また、必要に応じて訪問歯科も実施されており、口腔ケアや義歯の調整を行っている。その他、柔道整復師による訪問マッサージも実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回、訪問看護の往診があり、往診時に状態の説明を行いアドバイスを頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際はアセスメントの提供を行っている。入院された後はご家族や病院と連絡を取り状態確認を行っている。退院前はカンファレンスを行い、退院後の対応が混乱しないように情報の共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で、ご家族様に日常生活や状態含め報告を行い今後の方向性の確認を行っている。ご本人、ご家族の希望を重視した上で往診医と連携を取り合い、職員全員で情報を共有してケアに取り組んでいる。	重度化・終末期においては、契約時に施設の方針を説明すると共に、意向確認や同意も得ている。入居者の身体状況の変化に応じて、医師・看護師・職員・家族間で話し合いを行っており、医療連携の下、施設で出来る限りの支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の個別ファイルを作成し対応を記載している。すぐに取り出せる場所に置いてあることや連絡先など職員全員が周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設全体での実際の避難訓練は実施出来ていない。月1回の研修後に紙面上や口頭上でのシュミレーションを行っている。	スプリンクラー・火災報知器・自動通報器等の消防設備を設置していると共に、食料等3日分の備蓄、発電機を有しており、災害対策を行っている。また、災害対策の研修や救命救急講習・AED講習の受講を通して、緊急時の対応も身につけている。	災害対策における研修は実施されているものの、消防避難訓練は実施されていない。今後、消防署に届け出を行った上で消防避難訓練を実施し、火災や地震、水害等の災害時の対応方法を身に付けていただくことを望みます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が入居者様を何々ちゃんと呼んだり記録などに不適切な記録を記入した時は管理者が指導している。居室などに訪室する時はノックをして訪室理由を説明し入るようになっている。	プライバシー保護や接遇に関する研修を定期的に行っており、入居者一人ひとりのプライバシーや尊厳を大切にしている。また、個人情報保護についても、誓約書を交わす等、周知徹底を図っている。日常生活では、一人ひとりに合わせた言葉掛けや支援を心掛け、その人らしい生活の実現に向けて取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	定期的に入居者様に声掛けし現在の生活状況や今後やりたいことなどを確認している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の精神状態も日々変化するのでその日の状態に合わせた生活スケジュールを組み立てている。決して無理強いしない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思疎通が出来る入居者様は入浴時に着る服の希望の確認をしたり、起床時や入浴後はドライヤーや櫛を渡し鏡の前でセットしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の際、皮むきなどが出来る方には手伝っていただいている。食前のテーブル拭きや食後の洗い物や片付けも見守りを行いながら行っている。	入居者の希望に応じて、食事の準備から片付けまで職員と一緒にいる。献立や食材の配送は業者に委託しており、栄養バランスに配慮した食事提供がなされている。また、入居者の嚥下機能に合わせた食形態の提供を行っている。その他、おせち料理やケーキ等の行事メニューや手作りおやつ等を提供しており、食に対する楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事提供は体重とのバランスが必要であるがおかわりを希望された方にはおかわりの提供を行っている。食欲が無い方や嚥下が困難な方には無理強いしないようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に職員と一緒に口腔ケアを行っている。訪問歯科からの定期的なアドバイスを受けながら口腔内の清潔保持に務めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方に合った排泄方法や時間などを職員間で検討し実施している。職員から無理強いして排泄の支援を行わず、入居者様の希望を確認して排泄の自立支援を行っている。	入居者個々の排泄状況や排泄パターンを把握した上で、なるべくトイレで排泄が出来るように支援している。日頃から、食事・水分・運動等を工夫していると共に、必要に応じて医師と相談しながら、適切な排便コントロールを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には歩行を促したり水分補給を促したりして便秘予防の対策支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否がある方は無理強いせず時間や日にちを変更して行っている。	入居者の体調や希望に応じて、適切かつ柔軟な入浴を支援しており、清潔保持に努めている。また、白癬のある入居者に対しては、足浴を実施し、症状の改善を図っている。その他、入浴剤の活用や季節に応じた柚子湯等の実施により、入浴が楽しみになるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を作らず一人ひとりの生活習慣に合わせた支援を行っている。夏の暑い時や冬の寒い時などはエアコンを使用し就寝しやすい温度設定を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情ファイルの確認をするよう管理者から職員に声掛けを行っている。体調の変化で明らかな薬の影響がある場合は訪問医や薬局に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	定期的に入居者様に好きなことや、やりたいことなどを確認し希望に添えるような楽しみごとを職員間で相談し実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナもあるので中々買い物や遠出は出来ないが施設周辺の散歩など行ける範囲の外出支援を行っている。	コロナ禍の為、買物や外出会等の実施は見合わせているが、散歩やドライブ、敷地内駐車場を活用した活動を行っており、入居者の気分転換や生活活性化に繋げている。また、運動会やクリスマス等の行事を毎月実施していると共に、体操や塗り絵・脳トレ等を実施しており、室内での活動にも力を入れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は入居者様に金銭は所持していただいている。預かり金で散髪や生活必需品などは職員が購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は入居者様から出すことはないが、ご家族からの手紙は入居者様に渡している。電話は自分で所持している方はご家族にかけている。ご家族から電話があれば入居者様と話す時もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が見たり聴いたりしているテレビの音量が大きい時は音量を下げていた。夜間時にトイレに行かれる時も転倒防止もあるので暗すぎず明るすぎずの照明を心掛けている。季節の折り紙や花を飾るなどして季節感も感じられるようにしている。	施設内はソファやテーブルを設置し、入居者が落ち着いて過ごせる環境作りがなされている。随所に、入居者の作品・写真の掲示や季節の飾りがなされており、温かみのある空間となっている。また、エレベーターが設置されており、入居者の身体状況にも配慮した造りとなっている。その他、敷地内に菜園があり、季節を感じる植栽がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同生活なので人間関係で合う合わないがあるので職員間で相談しながら座席の組み換えを行っている。レクリエーションを行う場合は入居者様全員に声掛けを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅に過ごされていた時と同じ空間が作れるように配慮している。入居者様とご家族と相談しながら好きな物を居室に置けるよう工夫している。	入居者・家族の希望に応じて、馴染みの家具や写真等を自由に持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活が出来るよう配慮されている。また、ナースコールや鍵が設置されており、安心・安全やプライバシーにも配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自分の居室などを忘れてしまう入居者様も多いので、その場所まで安心安全で自立した生活が送れるように工夫している。		